

～2023 年度を迎えて～

2020 年からまん延した新型コロナウイルス感染症、5 月 8 日から「5 類」感染症となり、ようやくアフターコロナの生活が始まります。この 3 年間、様々な制約の中でコロナと対峙してきました。特に IT の活用促進は目まぐるしいものがあり、現在も生活の中に定着しております。今後も technology と看護の融合は必要であろうと思います。

また昨年度は、病院機能評価、新入院棟への引っ越し、新電子カルテの導入と私たち職員の仕事に大きく影響を及ぼす事業が導入されました。大きな混乱の時期は過ぎましたが、今だ課題は残されており、今後安定・定着に向けて活動することが重要です。様々な制約の中で過ごしてきましたが、アフターコロナとなっても医療従事者としての振る舞いについては常に振り返り、万全の注意を払う必要があると思います。

またこの混乱の中で看護者は、常に看護の中心に何を置くのかを見失わないようにしなければいけません。どのような状況変化に遭遇しても「看護とは何か」「看護の役割とは何か」に常に立ちかえり、意思決定することが重要です。つまり“原点回帰”することです。日々の経験を看護の視点から意味づけし、学びに変えることだと思います。概念化・言語化してこだわりの看護の知にしていくことが重要です。その知が次の看護に繋がっていくのだと思います。

VUCA の時代、目まぐるしく変化する社会状況の中で、アンテナを張り巡らせながら情報を察知し、その変化を捉えること、柔軟に対応できる力を身につけること、主体的に取り組むことがポイントとなります。

そして看護のこだわりが自身の「中心」にあることが必要だと思います。これからたくさんの経験を通しながら皆さんひとりひとりがそのマインドを育てていけるよう応援したいと思います。 今年度も引き続き皆さんのご活躍を期待しております。

看護部 本館教子